

ブレンダン・ラヴェット著作集

ブレンダン・ラヴェット 著 関 尚子 訳

※ブレンダン・ラヴェットは、神学教育を専攻分野とするカトリック司祭である。

本書には、彼の二つの著作が収録されている。

○死の前の生 ——希望を文化に根づかせること—— (希望のインカルチュレーション)

インカルチュレーションとは比較的新しい用語であるが、キリスト教では、イエスのメッセージと(諸)文化との接触によって、その相互作用がもたらす福音の受容と文化の変容を意味するものである。この受容と変容について、さまざまな視点から省察し、現代を希望の世界へとつなぐ。

本書の題名を思いついたのは、ベルファットで印象的な落書きを見かけたからだ。そこには、「死の前に生はあるか」とあった。この質問の辛辣さは、あらゆる場所で長く苦しむ人々の中にこだましている。一方、本書の副題はキリスト者として書くと言う私自身の願望を表さず、つまり自分の人生において、自分の人生を通して、希望を受肉させることを願うものとして書くのである。(序文より)

— 目 次 —

序 文	まえがき
第一章 文化の中心性	第二章 現代性へのアプローチ
第三章 現代の世界システム	第四章 適切で均衡のとれた経験性
第五章 歴史の発生の鼓動	引 用

○天にあるように地においても ——フィリピンの状況で神に向かうこと——

本著作は、著者がフィリピンのミンダナオ島で教区司祭へ向けて行った講話と、その主張の背後にある基礎的批判的見方を提供したものである。

戒厳令下で、フィリピン階層社会の無視できない少数派(10年でカトリック司教会議の5分の1から3分の1人になった)と、さらに無視できない修道者の少数派は、増大する抑圧にもかかわらず、預言者的教会になるというチャレンジを受け入れた。社会に行われている不正に対抗するためのさまざまな特別チームが結成された。
(はじめにより)

— 目 次 —

序 文	はじめに
第一章 われらのための神秘	第二章 神に向かうこと
第三章 教会であることの意味	

【付録】 第一部 悪の不思議に対する神の解決策
第二部 人間の完全不可欠な善の価値基準

著 者 ブレンダン・ラヴェット

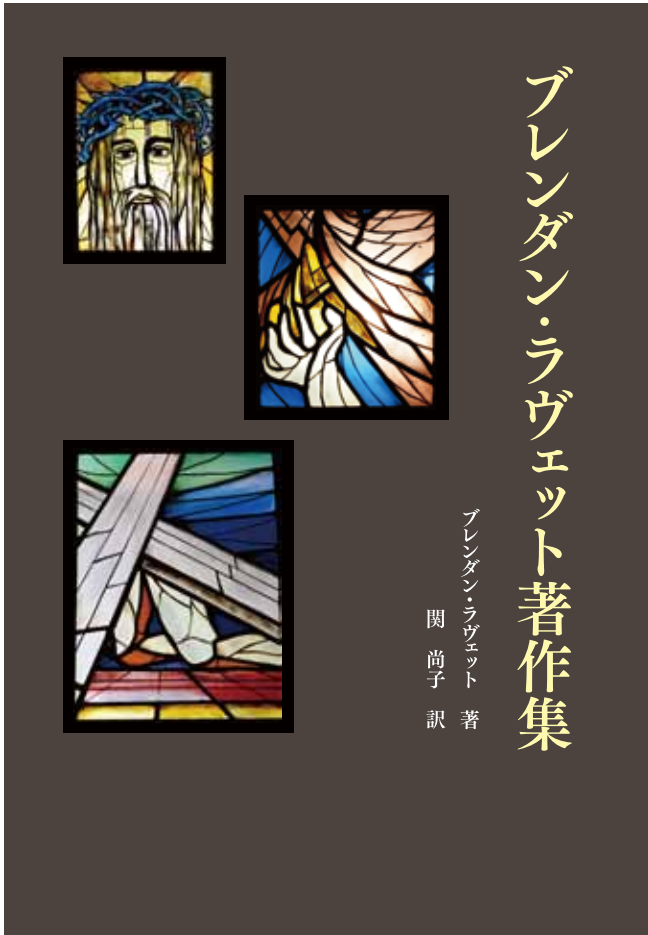
1942年 アイルランド生まれ

1966年 カトリック司祭叙階

ブレンダン・ラヴェットは聖コロンバン会司祭。

1967年以降フィリピンで司牧。

ほかにドイツ・ミュンスターで博士課程研究(1972-75年)とオーストラリア・シドニーで4年間教職に従事。主な専攻分野は神学教育。



本体 2,100円+税

B6判・338頁・並製